

永泉

日本基督教団瀬戸永泉教会 会報No.267 2025年12月発行

巻頭言説教「12月24日の夜空を見上げて」横山厚志牧師

天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。」（ルカ2：10）

今から14年前のことです。その年は3月11日に東日本大震災が起きました。東北地方を中心に大津波が起り、多くの被害がありました。私は当時、神奈川のキリスト教主義の学校で教務教師をしていました。その年のクリスマスは学校のドルカス（ボランティア活動する部活）の顧問をしていて生徒たちと一緒に、宮城県石巻市に行き、ボランティア活動をしていました。12月24日のクリスマスイブの時は、石巻山城町教会の聖夜礼拝に出席をしました。教会の牧師に話を聞くと、本来なら夜の時間に聖夜礼拝をしていたのですが、震災の影響で午後2時からするということでした。その理由として、石巻で被災された教会の方々にとって、夜は怖いものだからということでした。聖夜礼拝が終って、教会員の方々が私たちに温かいお茶とお菓子をくださって、当時の辛い話をしてくださいました。被災された苦しみの中で、やはり夜は怖いといっていました。被災された方々は、3月11日の夜は星がきれいに見えていたといいます。停電であったからです。12月24日の夜、宿泊している部屋から窓を開けて夜空を見上げると、本当に星の輝きがきれいだったことを記憶しています。

イエス・キリストの誕生の知らせは母となるマリア、そして婚約者であるヨセフに伝えられました。救い主の誕生を待ち望んでいたイスラエルの人々で、最初に伝えられたのは羊飼いたちでした。著者ルカはルカ2：8で「その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた」と書いています。イエス・キリストの誕生を最初に告げられた羊飼いたち、いつものように野宿しながら夜通し羊の群れの番をしていたのです。この文章だけでも、当時の羊飼いたちの労働がいかに辛いものであるか分かれます。夜通し野宿している、すべて羊飼いの仕事でした。毎晩、羊飼いたちはどのような夜の空を見上げていたのでしょうか。晴れて月や星々

の輝きを見るこもできたのでしょうか。曇りや雨で、何も見えない夜もあったでしょう。クリスマスイブの夜、この時は特別な夜でした。主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、羊飼いたちは非常に恐れたとあります。羊飼いたちにとって、この日はどのような光を見たのでしょうか。

羊飼いたちは、天使の言葉を聞きます。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである」と。この後で、天使が神を賛美していきます。羊飼いたちは、天使の言葉を聞いて、すぐ行動し、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てたのです。羊飼いたちは神をあがめ、賛美しながら帰って行きました。

私たちは毎年、12月24日を迎えます。その年その年で違った時を迎えていきます。まもなく2025年も終えようとしています。今年の12月24日は、どのような聖夜礼拝を迎えるのでしょうか。私にとって今から14年前のクリスマスイブは特別なものとなっています。ルカが私たちに示したクリスマスの出来事、イエス・キリストの誕生は変わることはないのです。天使は羊飼いたちに語りました。「恐れるな。民全体に与えられる大きな喜びを告げる」と。それは、「今日、ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ、主メシアである」ということです。今年のクリスマスイブの夜空の輝きは、どのようなものでしょうか。静かに待ち望みたいと思います。



クリスマスの思い出 鉄路教会でのクリスマスの思い出

U・Y姉

コロナ前は聖歌隊の一員として、祝会で「さやかに星はきらめき」を歌ったり、CSの子どもと一緒に、高齢者施設にキャロリングに行ったりしていました。

コロナで祝会やキャロリングはなくなりましたが、続いたものがあります（祝会は復活）。燭火礼拝での湖畔幼稚園の教職員によるハンドベルです。「荒野のはてに」「きよしのこのよる」など2曲ほど演奏してくださり、その音色の美しさは星の光のようでした。燭火礼拝でのハンドベルに触発され、牧師先生がプライベートに子ども用のハンドベルを購入され、CSで練習して皆に聞いていただいたこともあります。主役は子どもなので、CS教師はあまり出てこない音のハンドベルを担当していましたが、子どもが欠席すると子どもが担当する音のハンドベルを急遽担当していたものです。

礼拝には幼稚園教職員が出席しており、子どもを連れて来られる方もいらっしゃいます。そこでここ数年、クリスマス礼拝当日10時から子どもを招くべく、クリスマスを祝う会を開いていました。昨年は「お星がひかる」を台所用品、ペットボトルなどを楽器にして、子どもと演奏しました。らくだの足音である「かぽかぽ」の箇所を楽器で演奏することにしていましたが、鳴らすことが楽しいのか、終始鳴らしている子どももいたりと、微笑ましい光景でした。

子どもに楽しんでもらうために…という思い出が多いですが、クリスマス前のリースや飾り付け作りで他愛もないおしゃべりを楽しんでいたことを思い出します。

今年は久しぶりの永泉教会でのクリスマス。イエス様のご降誕をともにお祝いする日を楽しみにしています。

クリスマスの思い出

I・A姉

小学生だった頃、夜の商店街を讃美歌を歌いながら歩いた光景をずっと覚えています。

主日礼拝の後にお弁当を買いに行ったり、文房具屋に行ったり、CSの夏のつどいの買い出しに行ったりしていました。まだその頃は商店街もほぼ全てに店舗が入っており、人通りこそ多くはなかったものの、日中は賑やかな雰囲気があったのでは…と記憶しています。

わたしが小学生の頃は聖夜礼拝の後にキャロリングに出かけていたのだと思います。夜も遅い時間でしたので、商店街のお店のシャッターが閉まり、人通りもほぼなく、電気もほの暗い雰

囲気。イルミネーションなどあまりなく、クリスマスイブというよりはただただ“冬の夜”という感じがありました。その中でクリスマスキャロルを歌って歩いたことは非日常の経験として、ずっと心に残っている景色です。

その後は瀬戸蔵やパルティ瀬戸、窯の広場などで歌わせてもらったこともあります。ステージに立つということで、何かお揃いのものを…と、緑のマフラーの生地を買いに行った覚えもあります。

時代とともに少しずつ変化しながら、でも変わらずにキャロリングが続けられていることに、瀬戸永泉教会がこの地域に受け入れられていることを感じています。

クリスマスキャロルを通して、地域の人たちにクリスマスの喜びを伝える、そんな時間がこれからも続いていきますように。



2002.12.24 末広商店街のキャロリング

幸災告

創立記念特別講演会

M・S長老

瀬戸永泉教会137年創立記念講演会で樋野興夫氏より「がんを患って死を意識する」の講演を頂きました。

言葉が人生を変える心の处方箋であるとして、過去の偉人の言葉を引用して語られました。

この中で、内村鑑三の言葉で「真理は円形にあらず。橢円である」と語られたことが印象に残りました。

これは、「真理は中心が1つの円だけでなく、本当は二つの中心を持っている」とのことです。

わたしたちは、常にどちらかひとつに決め付ける癖があります。しかし、生きる中では「すべきこと」を一つ決めてしまっても状況変化により上手くゆかなくなったら、不安感が募り、悩みます。一方、二つの中心（大切なものの）をもつことができれば柔軟に対応が出来ます。

例えは死に対して恐怖心を持つ一方で、残された時間をいかに生きるか、との二つの気持ち

が生まれると思います。

この心境に至るためにも、悩みの多い私達の人生において、良き先生・良き友・良き読書（講演では人生邂逅の3大法則と説明）との出会いを通じて、良き人生の最後を迎えることができる事を語られました。

がん患者のみならず、生きる中で「人生を変える心の処方箋」を与えられた時、表情が変わり、残された新しい人生を歩むことができる。その処方箋を周囲の人々と共に見出し、心の糧とする事が大切と感じました。

日本キリスト教団 濑戸永泉教会
創立 137 周年記念講演会

『賢明な寛容』～『英断と胆力』～
—がんを患つて死を意識する。その時、あなたは、家族は—

2025年10月19日(日) 13:30～15:00

講師：ひのきお 横野興夫氏(順天堂大学名誉教授/新渡戸稻造記念センター長)

横野興夫氏プロフィール

1954年、島根県生まれ。医学博士。米国マサチューセッツ医療大学肝臓研究センター、Fox Chase Cancer Center、がん研究所実験病理部長などを経て2003年から順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授に就任。
2008年、がん患者と医療現場との「隙間」を埋めるべく『がん哲学外来』を開設。日本病理学会賞(高松宮記念研究基金賞)・南原賞(東京都医師会グローブ研究賞)・保健文化賞(日本がん協会「朝日がん大賞」)・日本癌学会「長與又郎賞」などを受賞。
第99回日本病理学会総会長、日本遺伝性腫瘍学会理事長、日本地域医療連携システム学会理事長、がん哲学外来名譽理事長・等
主な著書に『がん哲学』、『明日この世を去るとしても、今日の花に力をあけなさい』、『がん細胞から学んだ生き方』、『なぜ、こんな目にあわなければならぬのか』、『新渡戸稻造 壁を破る言葉』など多数。

・活動紹介 がん哲学外来金城カフェ(場所: 日本キリスト教団金城教会)スタッフ

★どなたでも大歓迎です。お気軽にお越しください。(入場無料)

会場/日本キリスト教団 濑戸永泉教会 礼拝堂
瀬戸市杉塚町5 TEL 0561-82-2314
ホームページ(<https://setoeisen-church.com>)

教会看板リニューアルについて

K・R長老

“このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しいについてよりも大きな喜びが天にある”。(ルカ15章7節)

～主イエスの迷える子羊の喩え～

教会の看板がリニューアルされました。感謝です。ついこの間まで、薄汚れた古い看板でした。教会がここにあることを表しているのに御言葉(聖句)が書いてあるのに、何か申し訳ない気持ちで心苦しく思っていました。新来者のカードに教会に訪れてくれた理由に教会の看板を見てとあったにもかかわらず・・・。

長老会で看板を新しくしようという事が議題に上がりました。前回の看板は私が手配しまし

たので今回も任せさせていただくことになりました。前述にもありました、看板が新来者を呼ぶこともあるんだなと思いながら、看板掲載の聖句が今までいいのかなと考えました。教会の由来に關係する聖句ではありましたが、キリスト教、聖書にあまりなじみのない方が理解するのには難しいではないかと思いました。それでアンケートを取る事になりました。”疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。”(マタイ 11:28)が一般には解りやすい聖句ではないかと・・・。今までの”わたしが与える水はその人の中で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る”(マタイ 14:4)と対峙させ、二者択一といたしました。アンケートの結果は33票中20:12(1票どちらでもOK)

で”疲れた者・・・”の聖句で行くことになりました。＊他に、看板の場所などについてもご意見ありましたが、現状の場所が今のところ最適であると判断しています。

看板のデザインについては旧約聖書での神の約束の印としての虹を描き、新しい約束として主イエスの十字架を輝かせ、鳩にオリーブを咥えさせた構図に致しました。”鳩は一羽でいいんじゃないの”って意見もありましたが・・・。

確かに私が業者さんに渡した最初の元となるデザインは一羽でしたが業者さんがなぜか2羽でアレンジしてきました・・・もともとノアの箱舟は雌雄一対で招かれていたので、また、神の良き知らせを伝え羽ばたく私たちのイメージでもあるので逆に複数の方がいいのかなと思いそのまま鳩は2羽のデザインで採用にしました。主なる神様のお求めになることをいつも心に思ひながら・・・。

主に繋がる人が一人でも多くなりますように、主なる神と喜びを共にできます事を祈ります。



聖書豆矢口語訳

ガブリエルの帰り道

小椋 実央姉

急ぎ足で聖書全編を駆け抜けるよりも、どんなに短い箇所でもよいから繰り返し読み込んで絵本を作るという授業をやってみたいと思っていた。聖書を読むということは、とどのつまり自分という罪人の物語を聖書の中に発見することだからだ。自分の手で開いておののが冒険を初めてもらわなければ、このほどよいぶ厚さが昼寝のお供になるだけで聖書がその働きを終えてしまう。

自身の準備不足からなかなか踏み出すことができなかつたが、年間二十数回足らずの授業時間からようやく絵本づくりのために4回を捻出することができた。そのぶん他の授業にしわ寄せがいくことは言うまでもないがチャレンジ精神旺盛な上司と新しいもの好きな同僚に恵まれていることが後押しになった。各クラス代表1名、合計9冊の作品を展示することもメディア・ライブラリーというおしゃれな名前のいわゆる学校図書館が快諾してくれた。

とりあげたのはヨセフ物語。兄弟ゲンカや騙しあいの出来事がきっと中学生の心に響くだろうと確信していた。「ヨセフが夢を解いたのは朝？夜？」「頭を上げるってどういう意味？」想像もしていなかった質問からいかに自分が思い込みで聖書を読んでいたかを反省させられる。

「ベニヤミン目線で感動的な物語にしたい」、「執事目線のほうが謎解きみたいで面白い」。中には課金をすれば続きが読めるという絵本も登場・・・さすが今時の中学生。

200超のヨセフ物語を読むのは骨が折れるものの嬉しい作業だった。神から全権委任された大天使のごとく各クラスを渡り歩いて「あなたの作品を展示します。」と告げに行く時、はにかむ彼女たちの表情を見てこの上なく幸せな気持ちにさせられた。マリアに厳粛に受胎告知したガブリエルは帰り道、きっとニヤニヤしていただろう。クリスマスは主イエスご降誕のうれしいしらせを伝える時。どなたにもニヤニヤした帰り道が与えられんことを。



クリスマスの準備をしました



【今後の予定】

- ・ 12月14日(日)
9:00～
教会学校礼拝、降誕劇
13:30～14:30
クリスマスコンサート
演奏：カタデテラ～catta de terra～
(ソプラノ歌手を中心とした音楽ユニット)
- ・ 12月21日(日)
10:30～
大人向け礼拝、礼拝後祝会
- ・ 12月24日(火)
19:00～ 聖夜礼拝

=編集後記=

K・R長老

主イエス・キリストのご降誕を喜び、祝いましょう。クリスマスの主なる神様の大いなる恵み、今一度、御言葉を深く味わい、心より感謝したいものです。世界の平和を望みます。戦いが終わり、すべての人々に平和を、その生活に平安が訪れますように・・・祈りが必ず届くと信じて希望が与えられますようにと・・・今回も原稿お願ひしました方々、ありがとうございました。御心があられますように。 アーメン

日本キリスト教団 濑戸永泉教会

牧師 横山 厚志・小椋 実央

〒489-0822 濑戸市杉塚町5

電話、FAX：0561-82-2314

ホームページ：[瀬戸永泉教会](http://seto-nagisa.com)で検索または⇒

